

2007年10月1日

ベトナム ニエムギア子どもの家

職員処遇状況改善支援事業

2006年度年間報告書

1、支援内容

支援金額 1,800ドル(約20万円)

支援対象 ベトナムハイフォン市 ニエムギア子どもの家

受益者 ニエムギア子どもの家の全職員 12名

子どもの家トゥイ所長をはじめ、12人の職員全員に対し、合意書にもとづき給与が支払われました。また、記念日のお祝い金や賞与も支払われました。(別添参照)

職員達はこれまで以上に積極的に業務に励み、責任と熱意をもって指導にあたっていると所長からの報告があり、またエファでの調査でも確認しています。また、学習の遅れている児童に対して授業外でも補講をしたり、クラスを増やしたりといった努力もしています。識字教室でも同様のことは見られますが、特にミシンと刺繍の教室では、上手な生徒が先生のアシスタントとして年下の生徒の指導を手伝ったり、製品の仕分けをおこなったりと、子ども達の活動も活発になってきています。

物価の激しい上昇につき、食材や刺繍糸、布、日常用品を購入する経費も増大しており、そのために運営資金に余裕はなく財政は未だに困難です。しかし、職員の収入が以前に比べ安定してきたことで離職等のリスクが減り、各活動が順調におこなわれ、子ども達にとって良い環境になってきていると実感しています。

2、保護されている子どもの状況

2006年5月 家族のもとへ一人戻る

2006年6月 2人の子どもを保護

2006年9月 6月の保護した2人の子どもをホアフン孤児院へ転移

2006年10月 一人の子どもを保護

2007年2月 一人の子どもを保護

2007年5月 ハイフォン市の青年サッカーチームに一人入団

現在は9人の子どもが保護されており、全員が健康で元気に明るく暮らしています。サッカーチームに入団をしたり、ハイフォン市児童絵画コンクールで優勝したり、子ども達の社会参加も増えてきています。保護されている子どもは全員が小学校・中学校へいける状態にはありませんが、それでも約半数が通学しており、そのうち二人は成績優秀な学生として学校から賞を受けました。

3、識字教室・職業訓練教室に通っている子どもの状況

・識字教室

1年生クラス 11人、2・3年生クラス 22人、4・5年生クラス 18人 合計51人
5月に識字教室内の進級テストをおこないました。4・5年生クラスの18人の内11人が小学校卒業程度と認められる成績であったため、彼らは識字教室を卒業することができました。また、本年度は8月に自治労栃木県本部アジア子どもの家奨学金授与式をおこないましたが、成績優秀と認められた5名が文具および金500,000ドンを受け取り、保護されている全員および通っている多くの子ども達が健康保険料を受け取りました。

・職業訓練教室

刺繍教室 約35人、ミシン教室 約15人、理容教室 約8人

刺繍教室およびミシン教室においては技術の上達した生徒が一般の店から注文を受けられるようになり、日常生活が維持できる収入を得られるようになりました。理容教室は夜間学校に通う生徒のために夕方以降に設けられており、中学生以上の男子生徒を中心に非常に人気の教室となっています。散髪の技術はまだですが、子どもの家に通う子ども達がカットモデルを引き受け、実践的な指導をしています。また、エファジャパンのスタディツアー等でも、参加者にカットモデルを引き受けてもらい参加型の視察をおこなっています（最後は先生が修正）。

4、その他の活動

舞踊・歌 週2回

読書推進活動 週2回

折り紙・遊び 週2回

遠足（夏に2～3回）、旧正月、こどもの日、中秋のお祝い、先生の日、女性の日などのイベント企画、参加

交流（学校、地域、他の児童保護施設との交流、エファジャパンを通じた訪問での交流）

5、現状と課題

子どもの家での識字教室には、年々通ってくる子どもの数が増えています。学校へ行く条件を満たしていない子ども（出生届がない等）、就労児童などはいまだに多く、無料で勉強が出来る子どもの家は非常に重要な存在です。そのような理由から、子どもの家でもクラスを増やしたりしていますが、それだけでは足りず、クラスについていけないために補講が必要なケースが多々あります。現在、職員達はそのために勤務時間外で補講をおこなっていますが、それに対する手当を支払える余裕が運営資金にないため、ボランティアとしておこなっている状況です。識字教室以外でも、子ども達の指導のために、職員は勤務時間外の時間を費やし熱心に仕事をしています。

今後の課題として、子ども達にとって良い学習環境を確保するとともに、職員に対してより良い職場になるよう、児童保護基金や子どもの家と協議しながらすすめていきます。

以 上